

C-1 指導案

看護科学習指導案

石川県立田鶴浜高等学校・教諭

指導日時・教室	平成18年11月17日(金) 2限目
対象生徒・集団	衛生看護科 3年生 39人 (内訳 31H 39人)
科目名	母子看護 (単位数 2)
使用教科書	「母子看護」(文部科学省)
副教材	「小児看護概論・小児保健」(メヂカルフレンド社)

1 単元名 小児の日常生活と看護

2 単元の目標

- ・小児を取り巻く生活環境に関心を持ち、しつけや育児のあり方について、意欲的に学習を進めている。 【関心・意欲・態度】
- ・小児が健全な心身の成長・発達を遂げる上での日常生活の意義について、理解している。 【知識・理解】
- ・小児の発達段階に応じた生活習慣の自立過程を理解し、日常生活の援助の必要性について適切に判断できる。 【思考・判断】
- ・小児の栄養と食事、排泄、睡眠、身体の清潔、衣服、遊び及び生活環境等について、成長・発達に応じた援助技術を身につけている。 【技能・表現】

3 指導にあたって

(1) 生徒の状況

生徒は看護職を目指しているため、目的意識は高く、ほとんどが専門科目の授業に主体的に取り組んでいる。また、臨地実習を重ねる毎に看護の喜びを感じている。その一方で、対象を理解し個別に応じた看護の難しさを感じている。看護の対象には小児も含まれているが、兄弟姉妹が少なく年齢の離れた小児の世話をしたことがない生徒が多いため、小児に対する理解は乏しい。しかし、児童虐待や少年犯罪など昨今の小児を取り巻く生活環境や健康問題に関心が高く、4月当初のアンケートでは約7割の生徒から、母子看護で“小児の世話やしつけの仕方について学びたい”との回答があった。

これまでに本科目で小児の成長・発達について学び、また基礎看護では日常生活と看護の基本について学んでいる。

(2) 指導方針・方法

昨今の子育ての環境は危機的状況にあり、生徒は近い将来経験するであろう出産・育児に不安を持っている。どんなに時代が変わろうと生まれてくる子どもの状態は変わらない。小児は大人を小さくしたものではなく、体も心も発達途上にある人間であることをまず理解させたい。そしてその発達段階に応じた愛情ある世話こそが小児の成長・発達を促し、よい人間形成につながることを実感できる授業展開としたい。小児との接触が少ない生徒に、まず小児体験学習を取り入れる。その後、視聴覚教材を使用し小児の特徴を確実につかみ、根拠のある世話について考えられるようにしたい。また、ワークシートを活用し、知識の整理・定着を図る。

食事(調乳)、排泄(オムツ交換)、清潔(沐浴)、更衣については、校内実習を取り入れ、技術の習得を図る。また、家庭科と連携し離乳食の調理実習を行う。

4 単元の指導計画（総時数 15時間）

- 第一次 日常生活と看護 （2時間）
- 第二次 栄養と食事 （4時間）
 - 1時 小児の栄養の意義と栄養所要量
 - 2時 離乳食 本時
 - 3・4時 調理実習（調乳・離乳食）
- 第三次 排泄 （3時間）
- 第四次 睡眠 （1時間）
- 第五次 身体の清潔と衣服 （3時間）
- 第六次 遊びと生活環境 （2時間）

5 本時の指導と評価の計画（第二次 2時）

- (1) 題目 離乳の意義と実際
- (2) 本時のねらい
 - ・乳児の特徴と離乳の関連性、離乳の進め方を理解している。 【知識・理解】
 - ・月齢に合った離乳食について積極的に考えている。 【思考・判断】
- (3) 準備・資料等 ビデオ、ワークシート
- (4) 本時の展開

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	評価規準 【観点】(評価方法)
5分 導 入	1. 学習内容の確認 2. 本時の目標	・ 前回の学習（小児の栄養の意義）を想起する。 ・ 本時の学習目標・内容を理解する。	・ 成人と小児では栄養の意義が異なることを再確認する。 ・ ワークシートを配布する。 ・ 学習目標を板書し、ワークシートに記入するように指示し、本時の学習内容を意識づける。	
40分 展 開	(25分) 離乳とは何か			
	3. 乳児の発達と離乳の必要性 ・ 離乳の必要性	・ 発問について、自分の考えを発表する。 ・ 説明を聞きながら、ワークシート(Q1、Q2)に記入していく。	・ 発問：「乳汁栄養だけで栄養を満たそうとすると、乳児にどんな影響があるか」 *生徒自身、牛乳だけで栄養を満たそうとした場合を想定させ、考えを助ける。 (生徒の反応) 乳以外の食品を知らず、味覚が発達しない/ミルクだけでは十分な栄養が取れない/かめない子になる 等 ・ 離乳の必要性について説明し板書する。 ・ かめない子が増えていること、かめないとどうなるのか	

	<ul style="list-style-type: none"> ・離乳の開始と完了 ・離乳食のすすめ方 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの図を見ながら説明を聞き、離乳期には4段階あることを理解する。 ・ビデオの中で咀嚼・嚥下状態をしっかりと見る。(5分) ・説明を聞き、ワークシート(Q2)の重要箇所を下線を引く。 	<ul style="list-style-type: none"> を伝え、離乳の最大の必要性(咀嚼の発達)を強調する。 ・咀嚼の発達過程について、ワークシート内の図(Q2)を使い説明する。 ・離乳の開始について、咀嚼以外の諸機能の発達を関連させ説明する。 ・ビデオを流し、離乳期にある乳児の理解を高める。 ・離乳各期の咀嚼・嚥下機能の発達に合わせた調理形態、回数等を表や図で説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児の特徴と離乳の関連性、離乳の進め方を理解している。 <p>【知識・理解】 (ワークシート)</p>
(15分) 離乳中期の食事を考えてみよう				
	4. 月齢に合った離乳食	<ul style="list-style-type: none"> ・4人1組となり、司会・書記を決めグループ活動を進める。ワークシート(Q3)に書き込む。 → 1~2名が発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでワークシート(Q3)に取り組んでもらう。 ・机間指導しながら進まないグループに助言する。 ・献立早見表を提示し、活用するよう伝える。 ・「どんな離乳食にするとよいか」発問する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月齢に合った離乳食について積極的に考えている <p>【思考・判断】 (観察)</p>
5分 ま と め	5. まとめ 次時の予告	<ul style="list-style-type: none"> ・離乳中期のポイントに見合うのか確認する。 ・調理実習までの経過を理解する。 ・ワークシートを提出する。 (授業終了後) 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が考えた献立案を見ながら、本時の学習内容の確認を行う。 7ヶ月の咀嚼機能と食事形態が合っているか/食事回数と量・栄養のバランス/その他 ・調理実習計画の説明および、次回の予告(調理実習)を行う。 	